

Close up だて

— 4年連続の 全国大会出場 —

伊達高校放送局



伊達高校放送局の皆さん

テ

レビ、ラジオ、インターネット、新聞など情報を伝える手段はさまざまですが、思いを伝えるための表現もそれぞれです。

伊達高校放送局では、室蘭市で交通指導員のボランティアを行う金谷広子さんに密着。「赤から青に変わるとき」と題した伊達高校放送局として初の試みのテレビドキュメント作品として制作し、その結果、7月21日から東京で開催された「第61回NHK杯全国高校放送コンテスト」テレビドキュメント部門への出場を果たす力作ができあがりました。

局員の四戸岸愛梨沙さんが、悩みを抱え学校への足取りが重かった小・中学生のとき、寄り添ってくれた金谷さんの活動と温かい人柄が画面を通して見る人に訴えかけます。

「今の自分があるのは金谷さんのおかげ。金谷さんの優しさや笑



来年度の意気込みを語る伊藤さん(右)と見守る谷さん(左)

顔を伝えたい」と局員に提案し、1年かけて30時間撮影したものを8分の作品に作り上げました。

局長の谷真吾さん(3年生)は「満足のいく作品ができた。来年は、後輩が新しい試みをしてくれると思う」と後輩への信頼とともに4年連続で全国大会へ出場した強豪校としての自信も覗かせました。これに応える形で後輩の伊藤涼さん(2年生)は、「メリハリをつけて活動し5年連続の全国大会出場を目指したい」とのこと。

入賞が目的ではなく、生徒たちが人として成長するための場としての放送局でありたいとする船水顧問の期待どおり、人との関わりを大事にし、思いやりや優しさがあふれる作品として表現されたのかも知れません。

惜しくも準決勝に進むことはできませんでしたが、これからの活躍が楽しみです。



放送室には実力の証がたくさん！

表紙のはなし

伊達保育所の「磯遊び」。子どもたちは我れ先に！と海の中へ…になるかと思いきや、意外にも砂遊びに夢中になる子が多くいました。この日ばかりは、砂だらけになっても大丈夫ですね。



お詫び

先月号の「Close up だて」の中で、荒井静さんの住所が間違っていました。正しくは「清住町」です。訂正してお詫びします。

楽 画 記

■先日、さくら幼稚園の運動会にお邪魔させていただきました。園児は12名しかいませんが、地域の小学生、虹の橋保育園やつつじ保育所の園児も参加し、にぎやかに行われ、園児たちの力強い走りや、一生懸命練習した踊りなどがわいい姿を見ることができました。小さい子供は見ているだけで「癒し」をもらえます。(た)

■数十年前、私は某高校の放送局員でした。全国には届きませんでした。思えば私も当時は発声・滑舌練習に励み、流暢な日本語を話せたものですが、今やその反動大きく…何事も継続が大事だと身にしみました。(や)

■夏がきました。この暑さに勝つためにはどうすれば？と考えてたどりついた結論。それがおいしい食材で胃袋を満たすこと、そのためにクーラーのきいた車でドライブに出ることです。気分転換もできていいアイデアだと思うのですが、一つ問題が。基礎代謝が落ちて食べれば食べた分増えるのです。(と)

発行・編集

伊達市企画財政部企画課

TEL 0142-23-3331 内線238・239

FAX 0142-23-4414

E-mail kouhou@city.iwate.hokkaido.jp

〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

として保存しましょう